

# はれ!

ときどき  
その⑥ \* さとうひろこ \*

## 自分で決める

ちよつと気温が高いな〜と思う日、幼稚園の砂場は、季節に関係なく、決まって水浸しになる。砂場大好きな子どもは大勢いるが、中でもSちゃんの砂場好きは、群を抜いている。

靴下も靴も履いたままで、どろんこの砂場に入る。靴下が足の皮膚に貼り付いて、靴の中に泥水がたまり、いい加減気持ちが悪くなるまでは、絶対に裸足にならない。やつと裸足になると気持ち解放されるのか、表情が和らぎ、動きも大胆になる。

Sちゃんが砂場に入る前に、「先に靴と靴下脱いじゃうのは、どうかなく?」と優しく言ってみる。返事は予想通り、

「やだっ!」

やっぱりそうだろう。そこで翌日は、ちよつと厳しい口

## 調で、

「今日は脱いであそびなさい!」  
すると、あつさり、

「はい」と返事をし、そろえて脱いだ靴の中に丁寧に靴下を詰め込んだ。拍子抜けしたのと同時に、Sちゃんのこだわりが少しわかったような気がした。

この人は、こうして自分の感覚の伴わないところで、ものごとを決められたり判断されたりすることが多いのだろう。

どろんこの靴下と靴の感触。

「もう脱ぐぞ!」と決心し裸足になったときの気持ちよさ。気持ちと一つになったときの、しなやかに動くからだの感覚。

自分で感じて考えて、

「自分で決めたい!」というSちゃんの思いが、ひしひしと伝わってきた。  
(幼稚園勤務)

